

●2012 年度第 2 四半期決算説明会（IR）質疑応答議事録

日時 : 2012 年 10 月 31 日（水）18:00～19:00
場所 : 富士通汐留本社 24 階大会議室
説明者 : 取締役執行役員専務 CFO 加藤 和彦

質問者 A

- Q. 英国年金積み立て不足の対策について、もう少し具体的に教えてください。
- A. 詳細を語ることは控えさせていただきたいと思いますが、金利の変動などをシミュレーションして計算し、不足額をキャッシュでまかなうということを検討しています。これによって、次年度以降のキャッシュアウトを極力抑えたいと考えています。

質問者 B

- Q. 通信用半導体会社（アクセスネットワークテクノロジー株式会社）は、いつ頃から利益回収が可能ですか。
- A. アクセスネットワークテクノロジー株式会社は、モバイル端末のための通信チップの開発を進めております。来年度以降に出る新製品の為の開発投資が今後必要になります。

- Q. 滞留している棚卸資産とは具体的に何を指しますか。
- A. 主に官公庁系の大口商談によるものです。システム構築に時間がかかり、滞留時間が長くなっています。大規模商談の受注が増えてきたことの証明であると言えます。

- Q. 今回の下方修正ですが、外部要因、内部要因に分けて教えてください。また経営方針説明会はいつ行われ中期計画が示されるのか教えてください。
- A. 下方修正は外部要因が大きいと考えています。今回の下方修正ではデバイスと海外の需要低下が大きく影響しています。

海外はドイツ語圏の悪化が顕著です。新興国は伸びていますが顧客拡大のために、PC のローエンド品の比率が増えました。一方ユーロ安がコストアップ要因となり、さらにレノボや HP との競争の中で価格低下が著しく、採算は悪化しています。従来通りの戦い方を見直し、価格競争から距離を置きハイエンド品へシフトしなければなりません。一方ボリュームを稼がないとコストダウンが進まず、悩ましいところです。

もう一つの外部要因はデバイスです。LSI で見ると、三重の 300mm ラインは稼働率が非常に高く、スマートフォン向けを中心に 100%に近い水準である一方、基盤ラインはデジタル AV の需要が弱く、低稼働です。後工程のジェイデバイスへの売却は 12 月末までに最終的な詰めを行います。損益改善効果がでるのはまだ先です。電子部品は新光電気がありますが、7 割がインテル関連売り上げで、現在インテルの所要が厳しくなっています。

欧州経済がさらに悪化するならば、更なる構造改革を進めなければなりません。

中期計画については、今年度中に山本からお話させていただきたいと思っております。

今回の下方修正を受けて、投資家/アナリストの皆様に対してだけでなく、社内に対し

ても会社としての方針を示し、話をしていく必要があります。

質問者C

Q. 英国政府からの値下げ要求が来るかもしれないという話が以前ありましたが、その後どのような状況になっているのか教えてください。

A. 英国政府からの値下げ要求は現時点ではまだありません。

Q. 欧州向け PC に関して、販促費が非常に重くなっているという話がありましたが、2Q 及び今後どうなっていくのか教えてください。

A. 欧州における PC 販売の販促費の負担は、2Q に入って少し抑え気味にしてきました。

Q. いま半導体と欧州が非常に大きな問題になっているとのことで、業界再編や構造改革など、どういう施策を考えているのか、可能な範囲で教えてください。

A. 半導体の再編についてはノーコメントです。欧州は、これだけの減速感が出てくる中で、早めの手を打たざるをえないと考えています。

質問者D

Q. 国内業種別 IT の動向について教えてください。

A. 2Q の国内全体は、1Q 決算時には前年比 99%と見込んでいましたが、実際は 102%と、前回計画を上回りました。産業、社会基盤、金融、公共・地域など、流通を除くすべての業種で前回計画を上回りました。上期は全体で 104%、下期は少し伸び率が下がり 102%、通期は前回計画と同じく 103%を見込んでいます。業種別の通期は、産業は 113%、流通は 107%、社会基盤は 103%、金融は 101%、公共・地域は 100%を見込んでいます。社会基盤は、計画を上回ることができるかもしれません。注残をみる限り、通期の計画は達成可能であると、現時点では考えています。

質問者E

Q. 2012 年度のフリーキャッシュフロー予想が従来よりも悪化するの、英国年金に関する拠出で発生するキャッシュアウトが主要因と考えていいのでしょうか。また、今回の拠出による悪化分は損益に対してどう影響するのでしょうか。

A. 今回、フリーキャッシュフローが 1,400 億円悪化しますが、その内訳は、利益の下方修正に伴うものと、半導体の後工程を整理する際に発生する費用、残りが英国年金に関する拠出分となります。キャッシュアウトは年金基金積立不足を埋めるものです。これに伴う損益への影響はありません。

Q. 欧州ビジネスの足下の問題は PC ビジネスだけでしょうか。サービスビジネスは問題ないと考えていいのでしょうか。また、PC ビジネスは何が問題となっていて、どうすれば改善されるとお考えですか。欧州ビジネスの問題点と改善策を教えてください。

A. 欧州大陸の中で、特にドイツ語圏が厳しくなっています。PC だけでなく、IT 投資全般に対して消極的になっています。一方、英国ビジネスは政府系から民需系へのシフトが進んでおり、あまり心配はしておりません。

輸入型ビジネスの PC は、為替の影響を受けやすく、この上期だけで数十ミリオンユ

一口の損益インパクトがありました。また、インフラサービス分野にも、ハードウェア関連が含まれており、これが弱ってきています。マネージドサービスそのものは減少しておらず、問題なのはハードウェア関連だけなので、欧州の市況問題を別に考えれば、今後の欧州ビジネス回復に向けた問題点はそれほど難しいものではないと考えています。今後、ハードウェアに依存しない体質に向けて、サービスビジネスを加速させていきます。

PC ビジネスについても、ボリュームを追う戦い方から採算性を重視した戦い方へ意識を変えていきます。

Q. 半導体について、積極的に損益分岐点を下げるようなプランはないのでしょうか。

A. 半導体の構造改革の具体的なプランについては、皆様にお話出来る時期がくるまでお待ちください。

Q. 全社費用について、期初計画の数字を見た時は多少のバッファがあるように感じたのですが、実際はどうなのでしょう。期初の利益計画を守るために投資を抑制しているのでしょうか。それとも、投資の手は緩めないのでしょうか。

A. 基礎的な研究開発や、数年後に向けた投資を抑制するようなことはしていません。

一方で、コストダウンの為の全社的な活動を開始しています。このミッションは私の責任で進めており、4Q には成果が出せるよう取り組んでいます。

質問者 F

Q. モバイルフォンはいつも利益を保守的に見ているようですが、今下期はどうでしょうか。

A. モバイルフォンは当たり外れがある製品なので、保守的な計画を立てざるをえません。

以 上